

## 平成25年度 第2回高石市子ども・子育て会議・会議概要

■日時：平成25年3月19日（水）午前9時30分～11：30

■場所：高石市役所別館3階 会議室

### ■出席者

[委員] 畠中会長、中西副会長、清水委員、倉本委員、水野委員、初田委員、奥野委員  
山崎委員、園田委員、隈元委員、能宗委員、中谷委員、倉田委員、東野委員  
以上15名中14名出席

[事務局] 市長部局 保健福祉部 宮下部長、嶋坂理事

子育て支援課 中島課長、神志那課長代理、木下主幹、林主幹、小林係長  
教育委員会 北口教育部長、細越次長兼教育指導課長、  
教育総務課 佐藤課長 山本課長代理、生涯学習課長 杉本課長  
(株)ぎょうせい 野村・稲垣

### ■配布資料

資料1 高石市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果の概要  
大阪府の対応方針（平成26年度スケジュールのイメージ）  
地域子ども・子育て支援事業  
幼稚園の入園状況について（平成25年5月1日現在）  
市外幼稚園の入園状況について（平成25年5月1日現在）  
子ども・子育て支援新制度に関するニーズ調査票（小学生用）  
子ども・子育て支援新制度に関するニーズ調査票（未就学児童用）

### ■会議次第

1. 開会
2. 会長の挨拶
3. 案件
  - (1) 高石市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果の概要について
  - (2) その他

### ■会議概要

#### 式第1. 開会

○事務局より開会挨拶、資料の確認

#### 式第2. 会長挨拶

年度末のお忙しい中、早朝よりお集まりいただきありがとうございます。前回 11 月 25 日から約 4 ヶ月経過し、その間、ニーズ調査が進行しています。今日の案件は、ニーズ調査結果の概要について事務局から説明いただき、皆さんと議論をしたいと思えます。それでは、事務局より説明をお願いします。

### 式第3. 案件

(1) 高石市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果の概要について

・・・資料 1 に基づき、事務局説明（略）

畠中会長：概要の報告を受けました。なぜ細々したことを聞くのかとお思いになる方だと思いますが、最終的にはニーズ量を把握し、政策に反映するのが目標となっています。これからのお時間で皆様にご質問、ご意見を伺っていきたく思います。誰からでもよいです。いかがですか。では、ご意見が出る前に私から、いくつかお聞きします。まず、就学前の有効回収率が 36.5%ということですが、高石市の分布とほぼ同じくらいの分布があるということだと思えますが、それで大丈夫ですか？ というところ。それと、留意点の 6 番目に「無回答の場合は省略しています」ということですが、前回調査も同じように「無回答は省略」という対応をしていますか？この 2 点質問させていただきます。

事務局：回収数は問題ありません。また、前回調査も同様に「無回答は省略」と同様の対応をしています。

清水委員：母集団に関する質問です。今回の調査は市内在住の就学前の子供のいない全ての世帯ですね。子どものいない世帯はたくさんあるんでしょうか？そんなに多くないんでしょうか？これから生まれてくる可能性を考えるとニーズは膨れ上がるの可能性も見越した上で考えていく必要があると思えますが、どれくらいいるか数は把握していますか？

事務局：今後出産を予定されている世帯という意味ですか？

清水委員：出産を予定されている世帯、出産する可能性がある世帯。若いカップルでまだ子どもがいないけど、子どもが欲しいと考えている人たちの住むアパート、住宅地であるとか、そんなのがたくさんあるのであれば、これからどんどん人が増えていく、それは非常にうれしいことでもあるんですけど。

事務局：年齢別の人口推計はデータとして出しています。その中から児童のいる世帯を引いていかないといけない、申し訳ないですが、現在は用意しておりません。

実際、結婚する率、婚姻率は下がっている傾向があるようです。そのへんの議論は少子化対策と平行して検討しているところです。

隈元委員：高石市はこれから人口を伸ばし、住みやすい街にしていけないといけないという柱もあり、その中で子育て支援とリンクしてくると思えます。是非とも、高石

市全体で今後どういう風になっていって若い子ども達がどれだけ増えていくのか、という点を加味して、施策づくりに反映してもらいたい。難しいところもあると思うが、是非、取り組んでいただきたいと思います。

事務局：そういった供給体制についても今後検討させていただきます。

奥野委員：事前に資料を送付してもらい、随分把握はできていました。2、3感想をお話します。8ページについて、女性がもっと社会進出していると思っていましたが、実態としては、フルタイムは半数程度もいないことが理解できました。

11～12ページについて、社会状況がよく理解できました。男性社会が一向に変わらず、そして、やはり母親中心である。子育て支援するために、私の考えでは女性が就労するにあたり、支援をする必要があると思っていましたが、全体を見ると、まだまだ母親が中心だと分かりました。

19ページについて、子どもの病気・ケガについては母親が見ている、父親が休めない状況を理解できました。いろんな施設が支援をする必要がありますが、施設や設備預かりにより、母親が面倒見ざるを得ない状況と読み取りました。

一番最後のあたり、地域の子育て支援について。地域の支援や同年代の保護者同士の話し合いがあることで苦にならない、楽しいと感じている結果となっている。現在、幼稚園でも保育所でも園庭開放やプレイルームなどいろんなことをしている。そこで保護者からあらゆる相談があるときに、こちらも誠意をもって自らの経験をお話しすると信頼関係が深まり、またここの幼稚園に来ると言う言っただけの保護者の方もいる。施設施設でそういう対応をとることが子育てを楽しい感じる人が多くなると思います。

預かり料について、ストレスやしんどい時にちょっとだけ預かって欲しい時に預かり料の500円がしんどいと言う方がいます。この結果からはそのあたりは見えないので、これからの子育て支援で大事なことだと思います。

全体を通して、子育て支援を必要としている保護者がどういう状況であるか、このグラフからかなり理解できていいなと思います。ただ、利用者支援については読み取れないので教えて欲しいです。

高石市はほとんどの方が「楽しい」と感じている人がいると読み取れて、良い環境であると理解できました。

畠中会長：ありがとうございます。そのあたりは先ほどの回収率ですね、否定的な感想をお持ちの方も回答していただいたかは疑問があります。回収率が低い、属性はあっているかもしれないが、大変と感じている人の意見が吸い上げられているか、そういう問題意識を持ってみていかないといけない。

奥野委員：このアンケートに書けない人、つらいと感じて書けない人もいらっしゃると思います。本当につらいと感じている人は、つらいとか楽しいとかあっても、それってどちらとも言えないよ、っていうぐらいのときに「つらい」と書くことで、

もっとつらくなってしまう人もいるかもしれない。アンケート出さない方の、無言の声を聞き取る力が必要。アンケートだけで流れていくのではなく、聞いてあげられる雰囲気を持つことが大事だと思います。

畠中会長：調査の限界もあります、痛し痒し。そういう視点も必要だと思います。ほかにご意見は？

中西副会長：7ページでだいたい読み取れますが、8ページの一番下の共働き家庭率の数値について、前回結果はあればわかりやすい。おそらく上がっていると思いますが、共働き世帯がどれくらいあがっているか。8ページと前回数字があれば一目瞭然でわかりやすいと思います。

事務局：前回調査を調べます。

中西副会長：9ページの就学前の未就労者の就労意向について、就労を希望するのは子どもが3歳になったときが一番多い結果となっています。10ページの小学生についても、分散はしていますが、3歳が一番多くなっています。反対に、8ページの就労状況の結果では、3歳児を持つ母親が「今は働いていない」となっており、理想と現実のギャップがあるなと感じました。

9ページと10ページの就労を希望する場合の一番下の子どもの年齢について、就学前、小学生ともに、3歳のときに働きたいと思われる人が一番多いという意味ですね。

事務局：そのとおりです。

中西副会長：子育て短期支援事業ことで、本来あるべき数字でなかった件について。トワイライトステイ、ショートステイ、ページごとに用語がちがうと書く方は勘違いするかもしれない。

事務局：宿泊を伴わないのがトワイライトステイ、宿泊を伴うのがショートステイとなります。

中西副会長：支援事業にはいろいろあるということですね。

事務局：そうですね。子ども子育て支援事業の一覧表に、子育て事業の説明を載せています。子育て短期支援事業の中に今回のショートステイとトワイライトステイがございます。ご参考ください。

中西副会長：回答した人が何を指しているのか分からない、用語の説明が必要です。

事務局：長期入所と勘違いされたと思われます。

畠中会長：今、中西先生から指摘があったような、調査結果のデータと皆さまが日頃感じている経験値で大きく離れているような点がありましたら、ご指摘いただければと思います。

倉田委員：私は大きく数字がかけ離れているとは感じなかったですが、質問と意見があります。質問ですが28ページの放課後児童クラブと放課後こども教室の違いは。

事務局：小学生用のアンケートを見ていただけますでしょうか。1ページに書いてござい

ます。

倉田委員：わかりました。ありがとうございます。一時利用についての意見です。利用したいけど、実際利用していないが多かったと思います。費用の面とか。ファミサポが今 700 円だったと思いますが、思ったよりも利用がすごく少ないと思いました。利用のしやすさを考えてもらいたい。講習受けないといけないとか、利用したい人がどうすれば利用できるのかわからない。

事務局：貴重なご意見、ありがとうございます。参考にします。

水野委員：ファミリーサポートセンターについて。知らない方もいると思います。「こういうのがありますよ」というと「そんなんあったんや」という人もいます。存在をアピールされた方が良いと思います。

学童の5歳から1年生にあがるときに、よく保護者の方からお話があるんですけど、今までフルタイムでお迎えが19時30分とかで働いている方が、「学童が18時までですよ」とあきらめてしまっている。家族で協力が得られる人は働いているけれども、仕事辞められた方も多々おられる。

学童の時間を考えていただければ、女性の社会進出もできると思いました。

畠中会長：どうぞほかの皆さま。一言はお話していただきたいと思います。

山崎委員：私の立場から見ていくと、データの中から児童虐待、イジメをどう対応していくのか設問がない。今後データとしてあったら良いかなと思います。今回、ベビーシッターの事件がありました。認可の問題、整備できるようにしないと。今回のデータからはベビーシッターの利用に関しては傾向が見えないが、対応が必要だと思います。

畠中会長：母親と父親の就労状況、そこから9ページ以降の就労意向を見て思うに、収入が増えれば子供増やしたいという考えに結びつくのではないかと感じました。

もう1点がファミリーサポート、関わった水野委員の意見もあり、十分PRすべきと理解しました。発言のない方、時間の許す限り、発言をお願いします。

能宗委員：19ページの病時保育について、意見と質問です。

子どもが病気の際は、親族・知人に見てもらったという回答が多い結果を見て、やはり自分が見たり知人親などの知り合いが見ることで、子どもを預けて安心することができる、母親は安心して勤めることができるんだなと思いました。

20～21ページの親が休んだと回答した人の施設利用の回答率で、利用したいと思わないが就学前が43.7%、小学生が72.4%の数字を見て、母親の気持ちが出ていると感じました。それと、職場の保育施設もあればありがたいと思いました。

質問ですが、ファミリーサポートの利用が少ないが、病時保育の対応はどうされていますか？

事務局：今現在、高石市のファミリーサポート事業の病児預かりの対応は研修が必要となることもありできておらず、対応していません。

東野委員：私、下は幼稚園、上は中学までの子供が5人います。ファミリーサポートのことを知らなかったし、子育て短期支援事業など、初めて聞いた。いち保護者として知らないことがたくさんあるなと感じました。私は専業主婦で子供5人いるけれども、「5人たくさんいていいね」と言ってくれる人もいるけれど、働いていたら、それこそ、インフルエンザなんて1人なって順番になられたら1ヶ月ずっと看病しないといけない。そういうことを考えると、やっぱりできないと、欲しいけどたくさんは無理やと言う人もいます。いろんなことで改善することや、子ども欲しいけど作れない環境なのかなどを考える必要があると思います。

畠中会長：ありがとうございます。

磯部委員：たくさん資料を見せていただいて、それぞれの保護者の方の意見が見えてると思います。私、小学校に勤めておりまして、高石市は児童数が減っている現状があり、考えていかなければならないとひしひしと感じています。32ページの放課後児童クラブについて、小学校4年以降の高学年でも利用したいと思う数が多い結果となっている。少しずつ環境整備が必要と思った。

畠中会長：ありがとうございます。では次、どうぞ。

初田委員：公立幼稚園の園長なんですけども、現在、4歳、5歳から預らせてもらっている。これを読ませていただいて思ったのが、3歳からの希望者がものすごい多い、ニーズに応じていくためにはどうしたらよいか？公立幼稚園としてどうしていけばよいかを考えさせられました。幼稚園としては、地域のお年よりとか地域の自治体の方とかと一緒に支援をしており、その結果、母親が安定したり、お年寄りに相談したり色んな知恵をいただいたり、そういう支援の和をもっと広げていきたいと思っています。

先ほどの病時病後保育について、市立保育園にて対応はされているか教えていただきたい。

事務局：在園中の熱や体調不良になったり体調不良型には対応しているが、朝から熱がある、風邪を引いた状態での対応はしておりません。

倉本委員：公立保育所です。入所される子どもの年齢が年々低くなってきている。この調査の結果を見ても、早い段階から預けたいニーズというのがよく分かります。一定どこかに所属するというにはお母さんにとって、とても安全であると言えます。

畠中会長：時間も押してきましたので、概要についてはこのあたりでよろしいでしょうか。

委員：異議なし

畠中会長：それでは事務局からお願いします。

## (2) その他

事務局：資料の中に大阪府のスケジュールがあります。量の見込みの報告について、ニ

ーズ調査の数字そのままを府に提出し、府、国に行き、量の見込みとなる。  
今回の数字をクロス集計したものを次回会議までに提出させていただきます。今後、具体的な人口推計や市の施策的な部分人口をどう読んでいくのか、少子化対策にどう対応するのか、出産される見込みのある方で分かる範囲であればその部分をほかの資料等とクロス集計したものを使って平成26年度中に計画を立てていただきたいと考えています。平成26年度中と言いましても国は各市の供給体制、見込みどれぐらい必要であるか、を平成27年度の新制度が始まる予算の中に盛り込みたい、盛り込んでいただけることなので、数字的なものは9月に中間報告としてまとめたい、というふうにされておりますので、4月から半年しかない。できるだけ早い時期にクロス集計をお示ししたいと考えております。どれぐらいのペースで会議をさせていただければよいか、具体には次回の会議の開催時期について、ご議論をお願いします。

畠中会長：事務局としてはいつ頃を予定していますか？

事務局：大阪府の対応方針は8月と2月の2回で示されていますが、本市としては2ヶ月に1回程度必要と考えており、4月か5月に開催していただくことでいかがでしょうか？

畠中会長：4月、5月の提案が事務局からありましたが、各委員いかがでしょうか。次回は供給体制の確保方策について議論をできればと思います。5月中旬ごろ、12～16日とありますが。

中西副会長：事務局から候補日をあげていただいて、それから調整してはどうでしょうか。

事務局：それでは事務局から候補日を調整し、連絡させていただきます。

岡田委員：5月に実施、8月までにもういちど実施するのですか？

事務局：はい、今の状況では5月に実施し、その後、7月か8月に実施する考えです。9月に数値目標出すために、場合によっては2回開催する必要があると考えています。

隈元委員：終わりが決まっているので、事務局として見込みを立てていただいた方がよいと思います。

事務局：それでは、申し訳ないですけど、次回は5月中ごろ、その次に、7～8月に1回する方向で、事務局にて調整させていただきます。

畠中会長：はい、それではそのようにして下さい。そのほか、事務局からありますか。

事務局：先ほど、ファミリーサポートセンターとかショートステイ等がどういう方法で周知しているのか、ご指摘がありました。高石市ではパパママ応援ブックというチラシを作っています。子育て世帯に個別赤ちゃん訪問で家庭訪問した際にお渡ししています。市窓口には置いておりますが、これが始まってまだ数年ですので、それよりも前から子育てされているが届いてないところに、今後、どういう形で周知していくのかを検討させていただきます。現状としては、こんにちわ赤ちゃん

ん事業では生後2ヶ月の家庭にほぼ全件訪問できており、お渡しできています。帰り際に皆様にお渡ししますので、またご意見等、頂戴できればと思っております。

畠中会長：それでは本日の予定につきましては、すべて終了しました。委員の皆様には大変お忙しい中お集まりいただき、また、長時間に渡ってご審議いただきまして、ありがとうございました。それでは第2回会議は終了させていただきます、本日はありがとうございました。